

図書だより

石川県立松任高等学校図書室
平成26(2014)年10月発行

～菊花開（きくのはなひらく）～

気持ちのいい秋晴れの日が続くようになりました。さて、日本人になじみの深い菊の花。その開わりは平安時代から観賞用として、また薬草として用いられたといいます。

また、菊は50円玉のデザインにもなっているように古くから日本人に親しみのある花です。実りの秋、虫の声をききながら、何か1冊手にとって見てはいかがですか。



~ 部活本を読もう 運動部編 *~*

スポーツの秋、到来！図書室にある“部活本”を紹介します。今回は運動部編。スポーツの得意な人もそうでない人も楽しめる6冊です。

『ぼくは運動音痴』

運動音痴から「うんちゃん」とあだ名され、勉強もできず、落ち込みがちな高校生の勝。美人の妹が同じ学校に入学してからは変に目立って、ますます死にたい毎日。そんな中、詩を書く柔道部の男子と親しくなり、彼の幼なじみである女子柔道部のエースに恋してしまう。なぜか運動部にも入部するハメになり、学校生活は予想外の方舟へ。笑えて元気が出る青春小説。

『甲子園だけが高校野球ではない』

甲子園を目指して、部活動に打ち込む高校生たちの実話です。また、野球部員だけでなく、マネージャー、プラスバンドの女子部員、大会でプラカードを持って行進することを夢見る女子生徒、野球部員の交際相手の女の子など、高校野球に一生懸命、一途に関わる子供たちのストーリーも掲載。

『一瞬の風になれ』

「速くなる」——ただそれだけを目指して走る。白く広い何もない、虚空に向かって…。特に強豪でもない春野台高校陸上部に入部した2人のスプリンター。ひたすらに走る、そのことが次第に2人を変え、そして、部を変える。

『セカンド・ウィンド』

中三を前にした春休み、雲見峠で遭遇した疾走するロードバイクの集団。その日から溝口洋の世界はすべてが変わった。ロードレースを舞台に、悩みつつ成長していく少年たちの姿を爽やかに描いて絶賛を呼んだ大長編本格青春小説。

『オン・ザ・ライン』

活字中毒の侃（かん）は、高校入学早々、貴之から硬式庭球部に誘われ、たちまちテニス一色の高校生活となる。だが、貴之が交通事故に遭ったことで、2人の人生は大きく変わっていく。

『走れ！T校バスケット部』

強豪私立T校にバスケット特待生として入学した陽一。だが部内で激しいイジメに遭い自主退学する。失意のまま都立T校に編入した彼は個性的なクラスメイトと出会い、弱小バスケ部を背負って立つことに—。連戦連敗の雑草集団が最強チームになって活躍する痛快青春小説。

先生方からみなさんにすすめるこの1冊 第2回は市川 利明教頭先生です。

『下町ロケット』 著者 池井戸 潤

実家の小さな町工場を継いでいた。この町工場は、小さいながらも優れた技術を持っており、ロケットの打ち上げに必要な新型水素エンジンのバルブシステムの特許を取っていた。

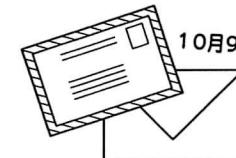
一方、帝国重工という大企業は自社のロケット開発を成功させるために、このバルブシステムがどうしても欲しかった。

この二者の、手に汗握る攻防がとても面白く、痛快な物語となっており、読んでスカッとする1冊であった。

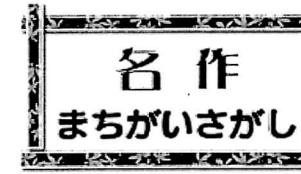


「世界郵便デー」

全世界を一つの郵便地域にすることを目的に万国郵便連合（Universal Postal Union : U.P.U.）が発足した日です。万国郵便連合は加盟国間の郵便業務を調整し、国際郵便システムを司る国際機関で、明治7年（1874年）にスイスで結成され、その本部はスイスの首都ベルンに置かれています。ちなみに、日本は万国郵便連合の設立から2年半後の明治10年（1877年）2月に加盟しています。全国均一料金で、切手を貼ってポストに投函すれば相手に届く近代郵便制度は、1840年にイギリスで始められました。日本では1871年（明治4年）4月20日に導入され、当初は東京一大阪間でしたが、翌年に全国に展開されました。
(総務省統計局)



世界郵便デー



紀昌は天下一の名人となるため、非常にも師匠の飛衛を誅しようとします。荒野で出会った飛衛を弓で狙うと、気配を感じた彼もまた弓を構えます。実力伯仲の達人同士が放った矢は真中で激突して地に落ち、勝負がつきません。2枚の絵の違いを5か所見つけてみよう。

